

新発田市 令和4年度 第11回定例記者会見

1 日 時 令和5年2月7日(火)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた501会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○「しばたの越後姫 いちご一会めぐり」初開催

○新開発！ 低糖質商品の試食販売会 開催

○ベトナムで市長がトップセールスを行います。

○「まちづくりドラフト会議 for Youth」2年ぶりの発表会開催

【その他】

○第8回『春 RUN 漫』しばたジョギング大会 in 加治川桜堤

○春を呼ぶ生涯学習フェスティバル

○『発掘された木の道具』展の開催について

○新発田市明るい選挙推進「市民書初め大会」作品展

あいさつ

○暦の上では立春ですから春ということでしょうけれども、肌で感じるというか、目で見て春を感じなければ、暦の上で立春と言ってもそんな感じがしません。今日はまさに肌で感じる春だなと思っています。もう除雪で予算をだいぶ使いましたので、2月7日現在で9億8000万円ですから、このままで終わってもらえれば平年並みだったということと思っています。去年の12月25日頃に1回多くの雪が降りました。1月の末に大寒波、そしてちょっとダラダラとした雪の降り方だったものですから、1月末に除雪費がかさんだということで、結果としては二つのヤマだけれども、除雪費だけを見れば、平年並みの除雪だったということが言えるのだろうと思っています。

- 私の故郷であり、地元でもある菅谷不動尊で2月3日に節分会があり、日報さんに記事にさせていただきました。菅谷のお不動様は、「福は内」は言いますが「鬼は外」とは言いません。これは、各家庭から鬼は外で鬼が行くところがないので、全部の鬼に菅谷のお不動様に来ていただき、来た鬼に対して不動明王の力を持って改心をしてまっとうな人間になって社会に返すという意味です。「鬼は外」と一切言わないというのが菅谷のお不動様の節分会の特徴かもしれません。ぜひ機会があったら各社、菅谷不動尊を見ていただくとありがたいと思っております。

- 昨日、2月定例会に向けて補正予算の査定をさせていただきました。主な補正予算は光熱費です。電気代・燃油の高騰の対応ですけれども、12月の補正予算でも2億4000万円の光熱費でありまして、2月も追加で6000万円ですから、大変な電気料金の値上げということになります。市民の皆さん方も大変だろうと、改めて補正予算の査定で皆さん方の現状を見るような思いであります。

- 本来であれば、電気・ガス・水道というのが、一番大きな公共料金になるわけですけれども、電気とガスは私どもの範疇ではありませんが、水道は私どもの範疇です。本来であれば、令和元年に水道料金の見直しをしました。が、大体4年サイクルで見直しをしているということであれば、令和5年度は水道審議会を立ち上げて水道料金の改定について諮問をすべきところでもありますけれども、私としては、せめて水道ぐらいは据え置きにしたいと思っております。コロナ禍の戦いの中で、市民の皆さん方に「ゆっくり風呂でも入り疲れを癒して、そしてこの後また戦っていただきたい」そんな思いであります。コロナも5月からは5類になるのではないかとということでもありますので、担当課にはしっかりと対応をするよう指示しております。

- 新年度予算については、今月15日に議会に報告した後、臨時記者会見を開いて発表させていただきます。詳細はその時に譲りますけれども、基本的には超積極予算を組ませていただきました。しっかりと市民の後ろから経済的にも押ししていこう、あるいは支えていこうということで、今までにない超積極予算を組ませていただきました。「コロナウイルスに負けてたまるか。」今年の私の一字は「拓く」であります。昨年が「刻む」でありました。「コロナとの戦いで一歩前に進んで刻んでいこう。」今年は、「その刻んだ道をより広げていこう」という意味で、私は「拓く」とさせていただきます。そんな1年にしたいと思っております。

最初に、「しばたの越後姫 いちご^{いちえ}一会めぐり」初開催について

- 「越後姫」は、当市の紫雲寺地区などで試験的に栽培され、平成8年に品種登録されました。市内には、越後姫の新規就農者が多く、生産者数、生産量、栽培面積も増加しており、まさに勢いのある農産物であるとともに、農家の皆様の丹精込めた栽培のおかげで、県内有数の産地となっております。
- 新発田の特産である越後姫を、「越後姫といえば新発田」と市内外に PR し、より多くの方に味わっていただき、また、日々の栽培にご苦労されている生産者の皆様に応援したいということで、このたび「しばたの越後姫 いちご^{いちえ}一会めぐり」を初開催いたします。
- 市内の28店舗の菓子店や飲食店で、新発田産越後姫を使ったスイーツなどのメニューが味わえるキャンペーンであり、定番のパフェ、タルト、ケーキなどの洋菓子のほか、羊羹、ピザ、パンなど幅広いメニューが楽しめます。開催期間は2月15日から3月15日までの1か月間です。3店舗をめぐってシールを集めて応募すると、豪華賞品があたるスタンプラリーも実施いたします。
- また、昨年度に越後姫の PR 大使として、ブランド化した「姫のてまり」も3月上旬からいよいよ発売を開始いたします。1000粒に1個の割合でしか収穫できない大変貴重な4Lサイズの貴重な越後姫。市内スーパーなどで、数量限定で販売いたします。幸運にも「姫のてまり」に巡りあえた皆様には、新発田のお姫様がこよなく愛した玩具、手毬のような大きさ、そしてジューシーで肉厚な食べ応えのある食感をお楽しみいただきたいと思います。もし、巡りあえなくても、通常の新発田産越後姫も十分に大きなサイズで食べ応えがあること間違いなしです。越後姫と言えば新発田です。奮ってお買い求めいただくようお願いいたします。
- 本日は、メニューの一部をご用意いたしました。ぜひ撮影とご試食をお願いします。また、皆様に新発田産越後姫のお土産もをご用意いたしましたので、職場や食卓の話題にお使ください。
- また、越後姫を作っていたいただいている農家の方とキャンペーン参加飲食店の方にもおいでいただいておりますので、越後姫への思いをお伝えいただきたいと思います。

生産者及び飲食店経営者による新発田の越後姫の PR スピーチ

○越後姫を品種改良で作ったのも新発田人ですし、初めて栽培に成功したのも新発田人ということで、まさに越後姫の故郷は新発田だということです。大いにこのことを PR して盛り上げていきたいと思えます。関係される皆様の意気込みが伝わってまいりました。きっとこの1か月は、まちがいちご色に染まると思えますので、私も楽しみにしております。

次に、低糖質商品の試食販売会の開催について

○城下町の風情が残る当市には歴史ある菓子店舗が多くありますが、コロナ禍の影響による、冠婚葬祭の激減などで大変厳しい状況に陥っております。この状況を打破すべく、これまでも、新発田が誇る「銘菓のセット販売」や「時代にあたりブランディングの支援」、「いちじくフェアの開催」など様々な取組を行ってまいりました。

○コロナ禍で、多くの業種において環境が一変し、その変化に対応し、チャレンジしていく姿勢がますます重要になっております。その最たる業種が菓子業などの食品製造業であり、これからは、いかに商品の付加価値を高めていくかが、重要な鍵になると思っております。このような思いから、昨年「オーガニック SHIBATA プロジェクト」を始動させ、その一環として高付加価値商品の開発支援をスタートいたしました。

○本日ご紹介するのは、新たな発想に老舗菓子店舗の技術を注ぎ込んでチャレンジしてきた「低糖質・スイーツ」です。「低糖質」は、近年、大手メーカーなどから次々に新商品が発売されるなど、市場が拡大している分野であります。この取組には、7事業者が参加しております。当初は、いずれの事業者も「低糖質」という初の試みに、開発は思うように進みませんでした。しかしながら、1社たりともあきらめることなく、勉強会を重ね、数え切れない試行錯誤を繰り返した結果、その努力の甲斐があり、この度皆様に商品をお披露目できる運びとなりました。

○3月4日、5日に「道の駅加治川」で試食販売会を行います。この2日間は、先ほどご紹介のいちごスイーツも大集結しますので、ぜひ足をお運びいただき、7事業者の努力の成果をご賞味ください。試食会では、率直な

ご意見をいただきたく、商品に関するアンケートも行いますので、ぜひご協力ください。皆様の声が、商品の品質向上、そして何よりも事業者の励みになります。アンケート結果などを基に、来年度には本格的な低糖質商品のデビューを目指していくと聞いております。それぞれの商品特長については、別紙でまとめておりますので後ほどご覧ください。

事業者による PR スピーチ

○スイーツと低糖質というのはある意味逆に近いようなもの。ここを開発していくというのは大変だったのだろうと思います。だから今までは大手の皆さんしかしなかったということは、私どものような老舗の商店の皆さん方をはじめ、食品加工の皆さん方がやっていただいたということで、大変ありがたいと思っていますところであります。

次に、ベトナムでのトップセールスについて

○当市では、平成 29 年度から米の輸出に積極的に取り組んでおり、現在では、民間事業者を通じて、台湾や香港をはじめとした世界 6 都市で、新発田産コシヒカリ、こしいぶきの取引を行っております。

○これまで、新発田市の真剣でひたむきな思いを伝えるためにも、台湾や香港、シンガポールなどに私自らが訪問し、トップセールスを行ってまいりましたが、令和元年 11 月のニューヨーク訪問以降、コロナ禍の影響から渡航を断念せざるを得ない状況が続いておりました。

○この度、世界的な行動制限の緩和を機に、経済成長著しいベトナムをターゲットに、ベトナム随一の商業都市ホーチミンでのセールス活動を行うことといたしました。

○期間中は、現地飲食店や旅行社での商談のほか、新潟ベトナム協会と連携し、ホーチミンで開催され、約 30 万人の来場が見込まれている「ジャパン・ベトナムフェスティバル」に出展し、観光や物産の PR を実施いたします。また、新潟ベトナム協会との交流会やホーチミン日本商工会議所への訪問も予定しております。

○経済成長著しいベトナムとの今後の誘客及び輸出拡大に向けてこの絶好

の機会を逃さぬよう、この度のセールスを通じて、「新発田」を積極的にアピールしてまいりたいと考えております。

最後に、まちづくりドラフト会議 ^{フォー ユース} for Youth 最終プレゼンテーションについて

- 市内の高校や大学に通う若者たちを対象に、まちの課題について具体的な解決策を考え、自ら提案する「まちづくりドラフト会議 for Youth」の最終提案発表会を2月10日(金)に開催します。
- 事業を開始して今年で6年目となります。昨年度はコロナ禍の影響で発表会は中止となりましたが、2年ぶりの開催となる今年は、過去最多の市内8校9チームの若者からエントリーいただき、若者たちのドラフト会議に対する強いやる気、そして我がまちに対する熱い思いを感じています。
- 各チームの学生たちは、授業や放課後の時間を上手に活用しながら、事業所や市役所を訪問し、現場の声をしっかり聞きとるなど、提案発表に向け、積極的に活動されていたと聞いております。
- また、昨年12月に開催した中間プレゼンテーションにおいて、アドバイザーを務める敬和学園大学の教授や、当市の職員からアドバイスをさせていただきましたが、これを踏まえ、各チームが最終プレゼンテーションに向け、提案内容をブラッシュアップしてきているようであります。
- テーマは、防災、商店街の活性化、地球温暖化防止など幅広い分野に渡っており、課題解決に向けた、若者の視点による提案が予定されております。
- ぜひ多くの方々にご覧いただき、次代の新発田を担う若者たちの頼もしさを感じていただき、まちづくりと一緒に考えていただく機会にしてもらいたいと思っています。